

中央大学ボランティアセンター



ボランティアセンター公認学生団体 紹介冊子

ボランティアセンターとは？

専門のコーディネーターが常駐し、ボランティアをしたい学生のサポートをします。より多くの学生がボランティアを通じて多様な社会と向き合うことを支援していきます。

ボランティアを一緒に探そう！

ボランティアセンター窓口にご相談ください。また、サークルでの特技を活かしたい方、ボランティアについて何か困っている方は、コーディネーターへご相談ください。

メールリストに登録しよう！

学内外のボランティア情報をいち早くお届けします。登録を希望する方は、ボランティアセンターのHPから登録してください。

<http://www.chuo-u.ac.jp/usr/volunteer/candidate/can03/>

※登録するアドレスは、大学からのメール
(~@tamajs.chuo-u.ac.jp)が必ず
届くように設定してください。



被災地 熊本
チームくまもと



被災地 東北
はまぎくのつぼみ
はまらいんや
面瀬学習支援
チーム女川



多摩
チーム防災

後楽園
りこボラ!

はまぎくのつぼみ

はまぎく魂は宮古と共に ～つながりの創造～

理念

私たち「はまぎくのつぼみ」は岩手県宮古市を拠点として活動している団体です。今年で震災から7年が経ちました。宮古市では、建物やインフラなどの復興が進む一方で、ソフト面での支援はまだ課題が多く残っています。また、時の流れによって震災の記憶が風化しつつある現状にあります。学生団体であるため、長期間に渡って現地を訪問することは難しいですが、その中で私たちは、メンバー一人ひとりが「今自分たちに出来ることは何だろうか」ということを考え、活動を行っています。

一昨年度からは宮古市の復興状況に合わせて、仮設住宅支援から公営住宅支援に活動をシフトしました。昨年の夏は、地域の夏祭りに参加し、現地の方々との交流を深めました。また、現地の企業や市役所、社会福祉協議会に訪問しヒアリングを行うことで、現地の状況の理解にも努めています。その他にも、学童へ訪問し子どもたちと触れ合ったり、学内やホームカミングデーなどで復興支援物産展を企画したり、SNSを通じて宮古市の震災当時の様子や現在の復興状況などの情報発信を行ったりと、一つの枠に収まることなく幅広い活動を行っています。

「はまぎく」の花は宮古市の市の花であり、花言葉は「逆境に立ち向かう」です。度重なる災害による被害にも屈せず、復興へと力強く歩み続けていく宮古のために、ひとりの力はわずかですが、いつか宮古に満開の花が沢山咲くようにという願いを込めて、「はまぎくのつぼみ」メンバー一同、活動を行っています。



すごろくで地域の方々と交流

活動内容

私たちの活動は、現地で行う活動と東京での日々の活動と大きく2つに分けられます。

〈現地での活動〉

主に春、夏、冬の3回で活動します。

- 津軽石地区でのコミュニティ支援／地域住民の方々との交流(被災地支援からコミュニティ支援に変わりつつあります。)
- 学童保育支援／子ども達の学習支援とふれあい
- 田老「学ぶ防災」／田老地区の防潮堤や、町づくり見学(ガイドの方に案内して頂きます。)
- 企業、市役所、社会福祉協議会訪問／ヒアリングによる現地の状況把握

〈東京での活動〉

- 岩手県復興支援物産展／中大生協や、外部商業施設での岩手特産品販売(震災の風化防止、被災地の経済的支援を兼ねて行います。)



夏祭りのお手伝いに初参加!



福祉施設イベントで物産展実施



写真フレームを楽しく作ります



学童施設で子どもと交流

▶ 団体構成

メンバー数	44人(4年生13人、3年生16人、2年生15人)	活動時期	春・夏・冬の長期休暇
活動場所	岩手県宮古市、中央大学等	ミーティング	週1日

▶ 団体連絡先

E-mail join.hamagiku@gmail.com Twitter @chuomiyako

Facebook <https://m.facebook.com/chuohamagiku/>

代表学生より一言

震災から7年が経ち、東京にいる私たちが被災地の様子を目にすることは少なくなりました。しかしながら、復興にはまだ支援が必要です。被災地のためにできることを共に考え行動してみませんか？

私たちは現地での活動に加え、物産展や写真展といった東京での活動も積極的に行なっています。

もちろん、他のサークル等との掛け持ちも可能です。宮古の復興に携わりたい方、ボランティアを経験してみたいと思っている方、ぜひ一緒に活動しましょう！

はまらいんや

人の復興を目指す「コミュニティ支援」

理念

当団体は活動の理念として以下の2つを掲げています。

- 住民の方々の”今日を生ききる力”となること
- 人と暮らしと地域に焦点を当てた”人間主役のボランティア”であること

この2つの文章を読んだだけで私たちが目的としている活動を理解することは難しいでしょう。しかし、人間には想像し共感する力があります。完全に孤立した状況の中、人は一人で生きていけるのでしょうか？病気や障害を抱えたとき、一人で日常生活を営むことが出来るのでしょうか？深い悲しみを誰にもわかってもらえない苦しみの中、毎日を楽しむことが出来るのでしょうか？これらの事がどんなに困難で、他の人のサポートを必要とすることであるかは容易に想像がつくと思います。ただそういった環境を築くことが困難な状況が続いています。

震災から7年がたった今、被災地にはまだ苦しみの中にいらっしゃる人が多くいます。当団体はそのような人々に寄り添いながら、その人の暮らしやその人自身、地域に目を配り、その人らしくいられるコミュニティづくりを目指し今後も活動を続けさせていただきます。

活動内容

当団体は宮城県気仙沼市の鶴巻二区の災害復興団地でイベントの企画やお宅への訪問活動を通じて「コミュニティ支援活動」を行っています。高齢者や障がい者などの社会的弱者の方を包括的にケアしていくのは、医療機関や行政の役割でもありますが、災害などの緊急時、日常的に支えることのできる存在として地域住民の方々とのつながり、地域全体のコミュニティが必要です。2017年9月から活動がスタートした自治会を中心に、鶴巻二区に住む住民の方々同士の新しいコミュニティ形成・維持ができるよう私たちはお手伝いさせていただいております。

▶団体構成

メンバー数	10人 (4年生5人、3年生3人、2年生2人)
活動場所	宮城県気仙沼市
活動時期	春・夏・冬の長期休暇
ミーティング	週1日

代表学生 より一言

東日本大震災。今ではテレビや新聞で目にすることは少なくなりましたが、現地では大きな爪痕を残しています。ハード面での復興は進む一方で、住民の方一人ひとりの抱える問題は解決されておらず、また見えにくくなっています。一人ひとりに向き合い、思いをさせ、自分たちに一体何ができるのか、一緒に考えてみませんか？自分の目で見て、課題を見つけ、アプローチする。それはきっとあなた自身の力にもつながるはずです。

▶団体連絡先

E-mail hamarainya@gmail.com



仮設住宅での交流会の様子



活動後には振り返りを行います



焼いて食べるマシュマロは最高！



公園でイベント実施



一軒一軒訪問させていただきます

面瀬学習支援

共に学び、共に描く、ふるさとの未来図

理念

●学校とも家庭とも違う子どもたちのための場を開く

震災によって、子どもたちの過ごす家庭環境、社会環境は大きく変化しました。住み慣れた家を離れたり、それまで家にいた家族が働きにでたり、大通りに頻繁に大きなトラックが走るようになったり...そうした変化に、子どもたちは直接働きかけることはできません。私たちは、学校や家庭のような「教える・育てる」立場や、友だち付き合いのような「仲間・対等」な立場ではない、「お兄さん・お姉さん」のような関係つまりは「ナナメの関係」を活かして、他の場所では表現しづらいことや言いづらいことを、ここでは出してもらい、それらをしっかり受け止めることができるような場所を目指しています。

●選択肢を広げて未来の面瀬・気仙沼の担い手を育む

大学生や地域の大人と関わりながら、さまざまな体験を通して、子どもたちが考える、知ることのできる場、成長の場を作ります。

気仙沼の魅力をともし、子どもたちが自らを形作る故郷を学ぶ機会を作ります。地元を知る、学ぶことで、子どもたちが自分自身を確立し、自己の将来について考える土壌を作ることを目指します。

以上のふたつを理念とし、外部から来た大学生としての私たちができていることを考え続けます。



宿題やプリントを使っでの学習支援

活動内容

私たちは気仙沼市面瀬地区の面瀬小学校の小学生を対象に、宿題指導と自由遊び、体験型の地域学習をしています。また、活動出身の中中学生も活動に来てくれることがあります。

週一回のミーティング、年三回の事前現地調査、長期休暇に合わせて年三回、約一週間程度、現地での活動を行っています。

小学校の先生や現地で活動する子どものあそび場をつくる団体、地域の大人の方々など、いろんな方からご協力やアドバイスをいただきながら、子どもたちにとってよりよい団体となるよう活動しています。

子どもたちの様子や地域の様子、またその変化にあわせ、団体のあり方を日々模索しています。

▶団体構成

メンバー数	29人(4年生10人、3年生7人、2年生12人)	活動時期	夏、冬、春の各長期休暇に1週間程度現地で活動
活動場所	宮城県気仙沼市面瀬地区	ミーティング	毎週1~2日程度

▶団体連絡先

E-mail omose.chuo.v@gmail.com



外で遊ぶ子どもたちは元気いっぱい!

代表学生より一言

皆さんボランティアにどんなイメージをお持ちですか？僕たちの団体の場合、学生から子どもたちに勉強を教えて、遊んでいるだけと思われる方もいるかもしれません。しかし、準備段階で、皆と真剣に子どもとの関わり方や次の活動内容を考えたり、時には今後の団体の方向性などの答えのないものを考える事もあります。みんなで子どもたちのために学生ができる事を第一優先に考え、それを活動毎に挑戦していく、とても有意義な活動だと思います。



自治会館には子どもたちがたくさん



遊び時間も大学生と一緒にならワクワク



雨の日も楽しんでしまう子どもたちです

チーム女川

大好きな女川を伝えたい

理念

●女川の人の声に寄り添うとともに女川の今を発信する

東日本大震災から7年が経とうとしている今、宮城県女川町は次のステージに進もうとしています。ほとんどの災害公営住宅の建設が終了し、新しい町として生まれ変わりつつある女川町ですが、住民の方へのヒアリングを進める過程において、災害公営住宅への移住によって年配の方が家にこもりがちになり、以前より住民同士のつながりが希薄になったということが分かりました。そこで2017年からは災害公営住宅に住んでいる高齢者の方向けのコミュニティ支援を活動の中心とし、イベントの企画などを行っています。イベントを行う際には、住民の方のニーズに合うような企画を行うことを目標としており、住民の方々の心と体の健康につながり、そして住民の方々の声に寄り添った活動というものを大切にしています。

また、チーム女川では都内での物産展や文化祭での出店などを行い、女川町をより多くの人に知ってもらうということも活動の主要な目的にしています。自分たちが実際に女川町に行き、学んだことや感じたことを伝え、女川町を発信すると共に女川町についての自分自身の考えを深めていきたいと考えています。

活動内容

現地での主な活動としては、災害公営住宅に住んでいる高齢者の方々を対象としたコミュニティ支援を行っています。具体的には髪どめ作りなどを企画し、住民の方と一緒に、楽しい時間を共有したいと考えています。なお、住民の方に意見などを伺い住民の方のニーズに合った企画を行うよう心がけています。また、その企画を行うために各メンバーが自分の意見を持ち、伝え合うことを大切にしている日々のミーティングを行っています。

東京での活動としては、女川町観光協会がお祭りや物産展に出店する際のお手伝いや、白門祭での女川の郷土料理の販売を通して女川町をより多くの人に発信する活動を行っています。2017年は物産展や名産のさんま焼きを通して女川の各製品のPRを行いました。

▶団体構成

メンバー数	9人(4年生2人、3年生5人、2年生2人)
活動場所	宮城県牡鹿郡女川町
活動時期	春、夏、冬の長期休暇
ミーティング	週1日

▶団体連絡先

E-mail chuo.teamonagawa@gmail.com Twitter <https://mobile.twitter.com/teamonagawa2017>

Facebook <https://www.facebook.com/teamonagawa>

代表学生より一言

女川町は、東日本大震災により甚大な被害を受けました。現在、女川町は着実に復興に向け歩んでいます。そのような中で、私たちが女川町の方々と共に歩み、女川町の方々の声に寄り添った活動を行うことを大切にしています。

また、現地で学んだことや感じたことを東京での活動において多くの方に伝え、震災を風化させずに女川町の「今」を発信することも重要だと考えています。



白門祭にて販売した「さんまのつみれ汁」



スタディーツアーにて女川駅を見学



都内のイベントにてさんま焼き



現地でのヒアリング



スタディーツアーにて現地の方のお話を伺う

チームくまもと

私たちがくまもとの為に来ることを、いまここから。

理念

私たちは平成28年4月の熊本震災で深刻な被害をうけた熊本県阿蘇郡西原村の小森仮設団地で活動しています。地震により住居を失った方は県が空いている土地に建てたプレハブの応急仮設団地に入居することが出来ませんが、団地タイプの狭い住居や元の家から離れた場所での暮らしは、住民の方にとってそれまでの暮らしと大きく異なります。

以前のご近所づきあいや生活スタイルの維持が難しい方、暮しづらさ、生きにくさを感じている方もいらっしゃいます。

道路や建物が復旧するだけでなく、村民の方たちの暮らしが前向きでその人たちにとって良いものになることで、はじめて西原村が復興したと言えるようになります。

私たちは、日々変化していく被災地の課題や、住民の方々一人ひとりが持つニーズを丁寧にとらえ、じっくり関わりながら自分たちにできることを行っています。

◆団体構成

メンバー数	9人(4年生3人、2年生6人)
活動場所	熊本県阿蘇郡西原村
活動時期	春・夏・冬の長期休暇
ミーティング	週2日



仮設住宅での交流会では笑顔がたくさん



大学生と一緒にならさらに楽しい子どもたち



現地でのミーティングも欠かせません

◆団体連絡先

E-mail Chuo.team.kumamoto@gmail.com

Twitter https://twitter.com/CV_kumamoto

チーム防災

「学生 × 地域 × 防災」で自助・共助の力を高める

理念

●被災地と多摩地域をつなぐ

チーム防災は、東日本大震災の被災地での活動で学んだことを活かしたいという思いから結成された団体です。その経緯もあり、被災地での活動などを体験し、「防災」という分野に関心を持った学生が所属しています。各々の経験を地域で発揮し、より多くの人へ「防災の大切さ」を伝えていきたいと考えています。

●顔が見える関係を築き、自助・共助の力を高める

学内での活動に加え、日野市内での防災イベントに多く参加し、地域の幅広い年齢の皆様と活動することを重視しています。学生が地域で活動することで潤滑油のような役割を果たし、普段から地域の方々が顔を合わせる関係を構築したいと考えております。災害時に自分の命と大切な人の命を守るためには...私たちは参加者の皆様と一緒に防災について学び続けます。

活動内容

日野市内の学校や自治会で、避難所運営ゲーム(災害時の避難所運営を想定し、避難者やイベントに対処するゲーム)やカエルキャラバン(楽しみながら防災の知識を学べるプログラム)などを、地域の皆様と一緒に日頃から防災について考える機会を大切にしています。大学内では、「BOSAI Cafe」の企画のほか、学生向けの防災訓練を企画したり食料備蓄品の配布を行いました。大学生にも身近に防災について考えてもらえるよう日々話し合っています。



地図を囲んで地域の危険な場所を知る「DIG」



中学校での防災啓発授業で本領発揮!



地域のイベントで「防災すごろく」

◆団体構成

メンバー数	10人(4年生6人、3年生2人、2年生2人)
活動場所	東京都日野市
活動時期	学期中、長期休暇中ともに月に2回程度
ミーティング	週2日

◆団体連絡先

E-mail teambosai.chuo@gmail.com

Twitter [@teambosai](https://twitter.com/teambosai)

りこボラ!

理系でもボランティアを日常に

理念

「りこボラ!」は「理工(りこう)学部でもボランティアしよう!」の略称から名づけられました。理系学生の中ではボランティア活動へ最初から興味を持っている人は少ないかもしれませんが。しかし理系だからこそ、地域や社会の問題に論理的・科学的に取り組み、貢献できることはきっとあるはず。また、ボランティア活動をしたときに得られる気付きや充実感を、自分だけの思い出で終わらせることは勿体ないこと。人と共有することで、考えをさらに深めることや新たな気付きを獲得することもできます。その気付きは自分の次の行動や活動に繋がるでしょう。そしてまた新たな経験をすることで新たな気付きが得られます。理系ならではの活動を目指し、経験と学びのサイクルを作ること。この考えを胸に、多くの方の支えの元で、活動を続けていきます。

◆団体構成

メンバー数	111人(うち20名が運営) (4年生13人、3年生27人、2年生71人)
活動場所	中央大学後楽園キャンパス周辺
活動時期	不定期
ミーティング	週1日

◆団体連絡先

E-mail chuo.riko.volunteers@gmail.com
 Twitter @C_RikoVolunteer
 Facebook www.facebook.com/chuo.rikovola



大学祭では防災ワークショップを行いました



ボラカフェでは、ボランティアの体験談に耳を傾けます



キャンパス周辺をキレイに! クリーン作戦

活動内容

私たちの主な活動は以下の4つです。

- ボラカフェ/ボランティアで得た経験の発信と共有の場の運営をします。
- クリーン大作戦/ボランティア初心者が参加しやすいゴミ拾いなどを企画し、活動を行います。
- 文京区周辺のボランティア活動と紹介/地域の方や他大学生と関わりながらより良い文京区を作っています。
- ボランティアセンターの学生スタッフとしての役割/多摩にあるボランティアセンターと後楽園キャンパス生の架け橋を務めています。

大勢の方
参加のお願い!

地域ボランティアで 地元の魅力を発見しよう!

ボランティアセンターでは、キャンパス周辺地域でのボランティア活動を推進しています。環境保全、農作業をはじめとする活動から、子どもやお年寄り、障がいのある方々との活動など、大学生の力が必要とされるボランティア活動は数多くあります。ぜひ一緒に地域を盛り上げませんか?

★ボランティア情報は、メーリングリストや掲示版、Facebook、Twitterなどでお知らせします。



ユギ里山

東京都が指定する「堀之内里山保全地域」で里山の風景を守るべく、農作業のお手伝いをしています。



せせらぎ農園

多世代・様々な方々が好きな時に集って農作業を楽しむ「コミュニティ・ガーデン」で農作業を行います。

大豆プロジェクト

国産大豆を学校給食に提供するため、日野市役所や地域の皆さんと一緒に大豆を育てるお手伝いをしています。



落川交流センター

「防災活動を日常に」と、地域コミュニティに根付いた炊き出し訓練を毎月行っている地域づくりの拠点です。



中央大学ボランティアセンター2018年度 年間スケジュール表

実施月 月	学内外イベント	被災地支援ボランティア	多摩地域ボランティア	学内ボランティア	スキルアップ
通年			子ども・福祉・環境・農業・福祉など様々		ボラカフェ(ボランティアについて気軽に話す場)
4月		・公認学生団体活動説明会		・献血	
5月	・ボランティア写真展	・新生スタディーツアー	・「ひの新選組まつり」(祭り)	・クリーン大作戦・春の陣 ・献血	・公務員になりたい人のためのボランティア講座 ・AED講習会
6月			・「みんなの遊・友ランド」(福祉)	・献血 ・クリーン作戦・ミニッツ	・公務員になりたい人のためのボランティア講座 ・AED講習会
7月		・公認学生団体決起会		・クリーン作戦・ミニッツ	
8月					・災害救援ボランティア講座
8-9月		・夏季ボランティア			
10月	・ボランティア写真展・夏ボラ報告会		・「みんなといっしょの運動会」(福祉) ・「日野市まちづくり市民フェア」(祭り)	・献血 ・クリーン作戦・ミニッツ	・振り返りワークショップ ・AED講習会
11月	・白門祭			・クリーン大作戦・秋の陣 ・献血	・AED講習会
12月		・冬季ボランティア		・クリーン作戦・ミニッツ	・傾聴講座
1月				・献血 ・クリーン作戦・ミニッツ	
2月	・大学生ボランティア活動展&防災イベント				・ボランティア講座
2-3月		・春季ボランティア			

※ボランティア情報は、公式webページ、C plus、掲示板、メーリングリスト、Facebook、Twitter等でお知らせします。
※なお、企画実施の有無を含め、日程は変更となる場合があります。

皆さんの興味に合わせた スキルアップ講座あります!

ボラカフェ お昼休みにオープン!

ボランティアについて、カフェにいるように気軽に話せる場「ボラカフェ」。お昼休みの時間に行うので、ぜひランチしながらお茶飲みながら、いろんな話をしませんか?



テーマは色々ですが、学生の皆さんが「こんな活動してこんなことを感じた」「これについて皆と話したい!」などなど、この場を使って話題提供したい、話したいという方も大募集しています。お茶と飲み物もあります♪ぜひ一緒にほっこりしませんか?

ボランティア講座 いろいろあります!

「公務員になりたい人のためのボランティア講座」「地域を巡るバスツアー」「振り返りワークショップ」「災害救援ボランティア講座」など、皆さんの興味に合わせた様々な講座を企画しています。



身近なところで気軽に ボランティア始めてみよう!

ゴミ拾い活動「中央大学クリーン作戦」の参加者募集

大学構内や周辺のゴミ拾い活動・クリーン作戦。「ゴミを拾うことで目に見えて地域が綺麗になっていく手応えが感じられる」「一緒にゴミを拾うことで仲間との達成感が味わえる」など、楽しさが口コミで広がり、少しずつ仲間が増えています。

お隣の明星大学生と協働で実施したり、地域の皆さんと交流しながら実施したり、学年学部、大学や世代を越えた学生や地域の方々との新たな出会いや刺激も魅力のひとつです。

【開催日】年2回(春と秋)実施、不定期で昼休み(クリーン作戦・ミニッツ)にも実施

◎開催日時の情報は、メーリングリストや掲示板、Facebook、Twitterなどでお知らせします。



問合せ先 中央大学ボランティアセンター

場所: 多摩キャンパス6号館地下1階 学生課内 開室時間: 平日9:00~17:00 TEL: 042-674-3487 FAX: 042-674-3469
E-mail: chuo_volunteer@tamajs.chuo-u.ac.jp URL: http://www.chuo-u.ac.jp/usr/volunteer/
FB: 中央大学ボランティアセンター URL: https://www.facebook.com/chuovolunteercenter/ Twitter: @ChuoVolunteer